

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年9月9日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.46]

JR革マルと党中央の協議にJR総連・東労組トップが代表出席！

先に、JR総連と革マル派との「対立」とは、革マル派内部の主流派とJR派との「対立」であったことを検証したが(No.25~27)、改めて、この「対立」について詳しく分析してみたい。元JR東労組中央執行委員(現JR労組委員長)の本間雄治氏の裁判での証人尋問(2009年3月3日)では、路線対立を巡り、革マル派の党中央とJR革マル派との間で話し合いが持たれ、そこに本間氏をはじめ、JR総連、東労組の幹部役員が多数出席したという衝撃的な内容が明らかにされた。以下に、その証言を紹介する。

(被告代理人)陳述書を拝見しますと、本間さんたちがいたJR内の革マル派というのと政治党派としての革マル派中央というところとの間に緊張関係があったことがあるということが述べられていますけれども、これは、時間的に言うと、いつごろのことを指しておられるんですか。(本間)1991年だと思いますけれども、その年の3月5日に行われた革マル派の定時集会で3.1提起というのが出されまして、いわゆるその党内での路線の問題について対立をしておりました。(代理人)路線対立ということですか。(本間)そうです。[以上、No.27で既報](代理人)対立が生じた後、両者、すなわちJR内の革マル派と革マル派の党中央との間で話し合いが持たれたということがありましたか。(本間)ありました。(代理人)場所は、どこで行われたんでしょうか。(本間)お茶の水が神田の近くのホテルだと思います。(代理人)前回、石川さん(注:東労組前委員長の石川尚吾氏)は、ホテルか何かであり、お茶の水の方が近いかなというような御証言をされていたんですけれども、そのことを指しておられるんでしょうか。(本間)そのことだと思います。(代理人)革マル派の中央は誰が出てきたんですか。どういう立場、あるいはどういう身分の人が出てきたんですか。(本間)弁護士が出てきたというふうに聞いています。(代理人)JR内革マルの方では、つまり本間さんたちの方ですけれども、どういった方たちが代表者になって出ていったんでしょうか。(代理人)小田さん(注:JR総連前委員長の小田裕司氏)や石川さんが入ったというふうに聞いております。(代理人)本間さん御自身は、そのときはどういった役割を果たしていたんでしょうか。(本間)会議の内容が内容ですし、防衛としてその近辺だとかロビーで防衛をしておりました。-(中略)-(代理人)代表というのは、JRの方からは何人ぐらい行ったんですか。(本間)人数は覚えておりません。(代理人)では、防衛する方は何人ぐらいいたのかというのは大体わかりますか。相当多数ですか。(本間)防衛は、相当多数おりました。(代理人)そこで話し合いが行われたということですが、その後、その対立というのはどういうふうになったんでしょうか。(本間)うやむやになったような感じです。

JR総連委員長や東労組委員長はJR革マルの代表者だった！

上記の通り、JR内の革マル派と革マル派の党中央との間の話し合いにJR革マル派代表として、JR総連小田前委員長や東労組石川前委員長が出席したという。本間氏は、小田氏がJR革マル派のカンパを集約して党中央に渡していたこと、石川氏がJR革マル派の「A会議」を指導する「LC会議」の東京全体の最高責任者であったことを証言した(No.8)。両氏は革マル派との無関係を強調するが、自らがJR革マル派の代表者だったというのだ。つまり、JR総連・東労組執行部は、JR革マル派の幹部そのものということになる！